

総合メディカル株式会社

「Blue Coat ProxySG[®]アプライアンス」で
本社と全国の支社・支店・薬局店舗間のWAN最適化、
業務の効率化を実現



総合メディカル株式会社では、全国に点在する支社、支店、薬局店舗などで、WAN回線の飽和によるWebアプリケーションの低速化が問題となっていた。パフォーマンスの改善に向けて、「Blue Coat ProxySGアプライアンス」が、WAN最適化、業務の効率化に大きく貢献している。

【この事例でのBlue Coat ProxySGアプライアンス導入・活用のポイント】

アプライアンス製品に加え、WAN最適化ソフトウェアによる通信の効率化

薬局店舗などのインターネット利用時における効率的なプロキシサーバーの実現、セキュリティの強化

主要拠点である東京・大阪をはじめ、ランチ・オフィスにおけるCIFISとWebアプリケーションの高速化



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社。



情報システム部 部長
白鳥 千萬城 氏



情報システム部 課長
永野 義昭 氏

企業名

総合メディカル株式会社

業務形態

医療経営コンサルティング

設立

1978年(昭和53年)6月12日

住 所

〒810-0001 福岡市中央区天神2-14-8 福岡天神センタービル16階
TEL 092 713 7611 FAX 092 713 7667 www.sogo-medical.co.jp

代表取締役社長

金納 健太郎

従業員数

2,454名(内パート462名 2008年9月現在)

事業内容

病医院の経営・開業コンサルティング、病医院の賃貸・売買斡旋、病医院の新築・増改築に関する相談、保険調剤ならびに一般薬・介護用品の販売、病医院への医療従事者の紹介、医療機器などのリースおよび割賦販売、病医院向けテレビ・ランドリーのレンタル。

WAN回線のアクセス集中で

情報系基幹システムのパフォーマンスが課題

総合メディカル株式会社は、創立以来30年にわたり、「よい医療は、よい経営から」のコンセプトのもと、病医院経営、入院患者へのよい医療を支援してきた。現在は、「そうごう薬局」など全国250店舗を超える調剤薬局を運営するほか、2001年10月から医業継承、医療連携、医師転職を支援するシステム「D to D (Doctor to Doctor)」を展開。医療機器のリース事業や、入院患者の快適さを向上するテレビ・ランドリーのレンタル事業、医療施設の設計、施工、調剤薬局の出店などのコンサルティングといった多様なサービス、ソリューションを通じて、日本型ヘルスケアビジネスの確立、企業価値の拡大を目指している。

同社では、全国に点在する支店、薬局店舗の増加に伴い、重要な個人情報、医療情報を守るため、サーバーの統合化、集中管理型の体制づくりなどに取り組んできた。情報システム部の白鳥千萬城部長は、「重要インフラのネットワークは大きなテーマでした。当社は約3年前から、従来型のネットワークを改善してきましたが、2008年春、薬局店舗で情報系のシステム再構築の実施に合わせて、新たな機器、ソリューションの選定を開始しました」と語る。

また、同部の永野義昭課長は、「ペーパーレス化を推進しているため、全社で使用しているWebイントラ・アプリケーション(グループウェア、Webメール)、ファイルサーバーの安定稼働が大きな問題でした。特に月曜朝には本社のサーバーにアクセスが集中するため遅延が発生し、情報系基幹システムの閲覧・表示に時間がかかり、生産性に大きな影響を及ぼしました」と従来の問題点を指摘。課題解決に

向けて、主要拠点の東京本社と大阪のネットワークレスポンスの改善を目指し、WebアプリケーションとCIFSの最適化に絞って検討を進めた。さらに薬局店舗からのインターネットアクセスが増加傾向にあるため、社内プロキシサーバーの更改も検討していた。WAN最適化装置と同じユーザインタフェースを持つ製品をプロキシサーバーでも利用することで管理負荷を軽減できるということから、Blue Coat ProxySGアプライアンスに絞り込んだ。

白鳥氏は、「予算の問題から、すべての支店に一度にWAN高速化装置を設置することはできません。そこで、ソフトウェアによる通信の高速化・最適化が決め手となりました。また、プロキシサーバーとWAN最適化装置が同じメーカーで統一できる点も大きなポイントでした」と導入のポイントを語る。

Blue Coatより評価機を借りて実際に試験をすると、思ったとおりの効果が得られたことで導入が決定した。

Webの最適化は約7倍、CIFSは約10倍 生産性の向上に大きく貢献

総合メディカルでは、先進的なプロキシ・アプライアンスである「Blue Coat ProxySG(SG510-25-PR)」を2台導入し、本社にインターネット・ゲートウェイとして設置している。また、WAN高速化、最適化を実現する、MACH5アプリケーション高速化技術を搭載したBlue Coat ProxySGアプライアンス「Blue Coat ProxySG510-25-M5」を福岡本社、「Blue Coat ProxySG210-25-M5」を東京本社と大阪支店にそれぞれ設置した。さらに、WAN高速化装置を設置していない支店や薬局店舗は、約300台のWindowsXPを搭載するクライアントPCに「SGクライアント」をインストールして、アプリケーションの高速化を図っている。

「WAN回線のボトルネックになっていたのは、何回も同じリクエストにレスポンスを返すことでした。その点、MACH5は、反復トラフィックをキャッシュして、ローカルで処理し、WANに送出するトラフィックを削減できるので非常に効果があります。具体的にWebに関しては、全国各支社、支店および各薬局店舗にしながら、地理的な差を感じることなく、ログインやトップページ表示速度が10～30秒程度要していたのが数秒に短縮され、平均で約4倍から7倍の効果がありました。本社にあるファイルサーバーのCIFSトラフィックに至っては、バイトキャッシング効果により、平均して7倍～10倍のトラフィック削減効

果を得ています。このおかげで大きなサイズや複数のファイルをアップロードまたはダウンロードする時間が大幅に短縮できました。」(永野氏)。営業拠点となる東京からは、導入前、遅延の早急な改善要望が役員からも上がっていたが、導入後にそのような要求は見られないという。薬局店舗においても、ストレスフリーの環境が構築できており、全社的に生産性の向上、業務の向上に結びついている。

必要に応じてシステムを強化 Blue Coat WebFilter™ Reporter活用へ

企業の成長に伴って、インフラの強化、拡充は、今後も避けては通れない。現在は重要拠点だけにWAN高速化装置を導入しているが、今後はその他の支店にも導入を計画している。

また、ProxySGをゲートウェイ型アンチウイルスとICAP連携させたことで、ウイルスチェックにかかる応答速度は向上したが、さらなるセキュリティ強化にも取り組む構えだ。

永野氏は、「今後は、事後対策から予防に向けて、インターネットアクセスを管理し、さまざまな脅威や不正行為から保護する『Blue Coat WebFilter』、トラフィックを監視してドリルダウンでネットワークパフォーマンスや不正使用を特定できる『Blue Coat Reporter』を活用していきたいですね。Reporterは非常に分析性が高く操作性も優れています」と語り、続けて白鳥氏は「これからも情報交換を密にして、必要に応じて増強を図っていきたいと思います」と抱負を語った。医療経営を支える総合メディカルの重要なインフラとなるネットワーク、セキュリティにおいて、今後もBlue Coat製品の活躍に期待される。

